

《重点項目》

2014年度に構築した本学会の理念体系のもと、事業再編を進める。特に以下の項目に取り組む。

1. 学会新ホームページの策定を含む情報基盤整備を推進する。
2. 日本語教育の研究・実践分野に新たな挑戦をする方の支援整備を推進する。
3. 本学会が取り組むべき社会的課題の精査をおこない、情報収集、調査、ネットワーキング活動など基盤整備を推進する。

1. 研究事業

(1) 大会の開催（所掌：大会委員会）

イ. 春季・秋季の各大会を次の通り行う。

春季大会：5月30日（土）・5月31日（日）、武蔵野大学

秋季大会：10月10日（土）・11日（日）、沖縄国際大学

ロ. 秋季大会で特別プログラムを企画・実施する。

ハ. 2016年度春季大会での大会委員会企画パネルセッション実施のため、企画準備を行う。

(2) 研究集会の開催（所掌：研究集会委員会）

研究集会を、全国的な広がりをもって、次の通り開催する。研究集会の形態は研究発表、実践報告、活動報告、講演、パネルセッション、ポスターセッション、ワークショップ、実践研究フォーラム等から成る。

第1回【研究発表・実践報告・活動報告・講演・ワークショップ】

6月6日（土）・7日（日）、九州・沖縄地区：北九州市立大学

第2回【研究発表・実践報告・活動報告・ワークショップ】 6月13日（土）、中部地区：名古屋大学

第3回【研究発表・実践報告・活動報告・講演・ワークショップ】 6月20日（土）、北陸地区：富山大学

第4回【研究発表・実践報告・ワークショップ】 7月4日（土）、北海道地区：北海道教育大学函館校

第5回【実践研究フォーラム】 8月1日（土）・2日（日）、関東地区：国際交流基金日本語国際センター

第6回【研究発表・実践報告・講演】 9月5日（土）、関西地区：園田学園女子大学

第7回【研究発表・実践報告・活動報告・講演】 10月24日（土）、四国地区：香川大学

第8回【研究発表・実践報告・ワークショップ】 11月予定、東北地区：秋田大学

第9回【研究発表・実践報告・活動報告・講演】 12月19日（土）、中国地区：広島女学院大学

第10回【研究発表・実践報告・講演】 2016年3月予定、関西地区：大阪YMCA国際専門学校

2. 刊行事業

学会誌『日本語教育』の発行（所掌：学会誌委員会）

第160号～164号の発行と準備を次の日程で行う。

・第160号：2015年4月発行（投稿締切：2014年9月1日）

・第161号：2015年8月発行（投稿締切：2015年1月13日）

・第162号：2015年12月発行（投稿締切：2015年5月1日）

特集テーマ「日本語教育の研究手法—「会話・談話の分析」という切り口から—」

・第163号：2016年4月発行（投稿締切：2015年9月1日）

・第164号：2016年8月発行（投稿締切：2016年1月12日）

3. 研修事業（所掌：教師研修委員会）

「他領域との協働」「社会とのつながり」「実践と研究の往還」をコンセプトに、国内・海外の現職日本語教師を主対象とした教師研修事業を行う。日本語教師に求められる能力の開発と教師間ネットワーク作りの機会を提供するとともに、日本語教育分野の課題への対応を図る。研修開催予定は以下の通り（タイトル・日時・会場等変更の可能性あり）。

- ・小中学校における日本語教育のあり方-「特別の教育課程」をめぐる、5月または6月、定員50名、会場未定
- ・夏季集中研修（話し合いの評価／質的研究）、8月8日（土）・9日（日）、定員80名、東京大学予定
- ・反転授業、9月または10月、定員40名、会場未定
- ・教材開発、11月または12月、定員40名、会場未定
- ・タスク再考、2016年1月、定員40名、会場未定
- ・教室活動のデザインⅧ、2016年1月、定員40名、会場未定
- ・ナラティブ、2016年2月または3月、定員40名、会場未定

4. 調査研究事業

(1) 調査研究事業（所掌：調査研究推進委員会）

調査研究推進委員会を中心に、調査研究を多角的に推進する。

- イ. 日本語教育学会全体の調査研究の方向性を検討し、他の委員会やテーマ研究会とも協力しながら、外部資金の獲得をはかりつつ調査研究事業を推進する。
- ロ. 日本語教育調査研究関連情報の収集、研究交流、研究者育成に役立つサイトの設置を検討する。
- ハ. 2015年度春季・秋季大会時に「日本語教育研究推進セミナー」を開催する。

(2) テーマ領域別研究会（所掌：テーマ研究会委員会）

各テーマ領域別研究会の管理、広報支援等を行う。

5. 日本語教育関係試験への協力

(1) 日本語教育能力検定試験認定（所掌：日本語教育能力検定試験認定事業委員会）

公益財団法人日本国際教育支援協会が実施する日本語教育能力検定試験について、同協会との取り決めに基づき認定を行う。

6. 顕彰・奨励

(1) 日本語教育学会賞・奨励賞（所掌：学会賞・奨励賞授賞候補者選考委員会）

イ. 第13回日本語教育学会賞・奨励賞

2015年5月30日に開催される春季大会において学会賞・奨励賞を各受賞者に授与する。

ロ. 第14回日本語教育学会賞・奨励賞

2015年10月に推薦資格者宛に会長より候補者の推薦を依頼する（推薦期限2016年1月31日）。推薦された候補者の中から、2016年2月の選考委員会において理事会に推薦すべき候補者を選考する。理事会は選考委員会から推薦のあった候補者につき審議し、授賞者を決定する。

(2) 日本語教育学会林大記念論文賞（所掌：学会誌委員会林大記念論文賞候補論文選考部会）

イ. 第10回日本語教育学会林大記念論文賞を5月の春季大会で授与する。

ロ. 第11回日本語教育学会林大記念論文賞の授賞対象論文を学会誌委員会の候補論文選考部会が選考し、理事会に推薦する。理事会は推薦のあった授賞対象論文につき審議し、授賞論文を決定する。

7. 情報交流・協力事業・国際連携

(1) 広報の充実（所掌：広報委員会）

ホームページのリニューアルについては新たに設置される特別委員会「情報基盤整備委員会」と連携し、企画検討および実施作業をすすめる。メールマガジンをはじめ、引き続きホームページ等で日本語教育学会の活動を広報面から強化する。

(2) 日本語教育関係機関・団体との協力

日本語教育関係機関・団体の事業に対し、要請に応じて後援等付与の協力を行う。

(3) 関連学会との連携（所掌：学会連携委員会）

イ. 言語系学会連合

言語系学会連合（加盟37学会）の活動に幹事学会として参加し協力する。

ロ. 多文化系学会連携協議会

多文化系学会連携協議会（異文化間教育学会、日本コミュニティ心理学会、日本学校教育学会、日本語教育学会）の活動については、新たな連携の方法を検討する。

(4) 国際連携活動（所掌：国際連携委員会）

- イ. 世界 10 か国・地域の学会で構成する「日本語教育グローバル・ネットワーク（GN）」事務局としての役割を引き続き担い、GN の活動を推進する。
- ロ. 2016 年バリ島にて開催される「日本語教育国際研究大会 2016」（インドネシア）に協力し、開催準備支援を行う。

8. 会務運営

(1) 代議員総会・理事会

- イ. (2015 年度) 第 3 回定時代議員総会を 2015 年 5 月 30 日に開催する。
- ロ. 理事会を年 5 回程度開催する。
- ハ. 常任理事会を年 10 回程度開催する。
- ニ. 各委員会の委員長を含めた常任理事会拡大会議を年 1 回開催する。

(2) 公益法人としての手続きおよび体制の整備

- イ. 公益法人として求められる所要の報告とともに、体制の整備（関係規程を含む）を進める。

以上